

いのちの電話の歴史、そして、いのちの電話のいのちとは？

林 義子（東京いのちの電話）

「いのちの電話」の歴史と「いのち」について、2つのことをお話ししたいと思います。

—私と「いのちの電話」の46年間—

最初に、「いのちの電話」の歴史についてですが、東京に日本で初めての「いのちの電話」が開局されたのは1971年10月1日でした。それから今日まで46年間、この電話は全国に広がりました。そこに共通して見えてくるのは、激しい日本社会の変化に影響を受けて生きてきた大人たち、子どもたちの姿を受け止めてきた「いのちの電話」の存在だったと言う事実です。電話を通して、匿名で話し合うこと。聴き手はボランティアつまり、普通の人であること。2人のかかわりを基本として活動をしてきました。

私は創立準備から今日まで、職員として、また、理事会や現役、OB・OGのボランティアとのかかわりを通して、46年間生きてきたことになります。ここでは字数も限られていますので、ごく短くその歴史の内容を記し、今日までの「いのちの電話」が何をしてきたか？を振り返る助けになれば幸いです。

一言で言えば、「いのちの電話」の46年間は、日本社会の46年間の変化に沿っていたと言うことができます。戦後が終わったと言われ、政府は、国としての復興のために、もっとも力を入れたのは、どの時代でも、経済的な発展でした。国民は一生懸命にそれに従って、働き、生活してきました。そのなかで、「いのちの電話」はボランティアが中心になって、ひっきりなしに、あらゆる世代からの訴え、叫びに耳を傾けてきました。

最初の70年代は、両親が働きに出るために子どもに鍵を渡す。子どもは一人でドアをあけて家に入って、お母さんが書いたメモをみる。「おやつは冷蔵庫の中にあります」。鍵っ子ちゃんと呼ばれた子どもたちからの電話でした。また、家族ぐるみで大都市に移住し、慣れない団地生活を強いられ、二人の中学生がいっしょに屋上から飛び降りようとして、怖くなってかけてきた電話もありました。生活の大きな変化を敏感に感じている子どもたちの姿です。

80年代90年代になると、子どもたちや青少年の

いじめ、登校拒否、家庭内暴力などなどの問題や家族の在り様の変化。90年代以降はバブルの崩壊による、自殺、孤独死、無差別殺人など、「いのちの軽視」という言葉が使われ、若者が未来に希望を持つことができず、暗い空気に覆われた時代です。厚生省の依頼によって、「いのちの電話」は毎月フリー・ダイヤルを今でも実施しています。

90年代後半から21世紀にかけて、世界も日本も、IT革命による大きな変化を体験しました。人間の能力と争うコンピューターは、スマホの出現によって普通の人簡単に手に入るようになりました。知らず知らずに、人と人とのかわりに大きな変化を与えています。あらゆる情報を一瞬に手に入りますし、他者とのかわりに煩わされる必要がありません。しかし、他者への関心、配慮は次第に薄れていきます。社会全体が自分中心で動き、他者とのかわりが冷たい関係が増えてきているように思っています。

—生き返る「いのち」—

人は一人では生きていけない。私たちは毎日生きるために、多くの人とのかわりなしには生きられないです。わたくしたちの周囲に他者とのかわりを失い、生きる意味がわからなくなっている人がたくさんいます。いじめにあっている子、虐待を受けている幼児、独居老人などがいるのに気がつかないのです。電車の中で杖をついている老人がいるのに自分は平気でスマホをみている大学生をしばしば目にします。

このような社会のなかで、「いのちの電話」は一對一でお互いに向かい合い、長い沈黙があっても、互いの呼吸を聴きあいながら、ポツリポツリと話し出す。そこにお互いのいのちのかわりが生まれる環境が「いのちの電話」の場です。人の苦しみや嘆き、悲しみ、そして怒りも、その人にとっては、心が孤立感でいっぱいでしょう。そこに一期一会の僅かな時間でも、他者によって自分のいのちが生き返ることができる。このような真のかわりが現在の日本社会の中で生まれ、ささやかながら続いている「いのちの電話」の存在価値であり、みんなの「いのち」をみんなできいきと生きることを目指して活動をしている「いのちの電話」です。



3日間の研修を通して、心のケアをしている人は3ヶ月ぐらいで自然のリカバリーをする。人とのつながりがあると戻ってくる。思い出す→語る→誰かが聴く→回復する。答えはその人が持っているから傾き、エコー、要約などの基本が大切と言うことを改めて実感しました。

『人は自分なりの物語を持っている。客観ではなく主観を理解することが大切』との言葉は相談員としてしっかり心に留めておかなければと思いました。

Y.H

3日間の大会は天理教の宿舎で大勢の人々と就学旅行のようでした。

2日目のころの体験講座では長年病院の院内学級をした阪中順子氏で、傾聴の大切さをワークショップを通し経験をすることができました。

多人数の中、ならのいのちの電話のおもてなしの心をいっぱい、いっぱいいただき、良い思い出になりました。

N.Y

300年の古都という場所に惹かれて参加し、そこに居るだけで気持ちが穏やかになるような時間を過ごしました。

東大寺長老の『悟りを求めて幾千里』というお話は本当に難解でしたが、「迷い、悩みながら、前に進み続けることに意味があるのです」という教えだと思いました。

懇親会のコンサートでのバイオリンの音色の深さ、温かさは、本当に素敵で心の奥まで響きました。

私は、言葉で、あの音色のような思いを伝えられるように、幾千里かも知れない道を歩いていきたいと思った奈良の旅でした。

M.T

1日目、参加人数800名の多さにびっくり！全国にこんなにたくさんの仲間がいるのに心強さを感じ、懇親会と宿舎では全国各地からの仲間達と語り、意見を交わし過ごしました。

2日目はビハーブ活動(三輪そうめんづくりもしました)

3日目はLGBTの研修と盛り沢山。私は初めての参加でしたが緊張感あり、いろいろな人と出会い、研修、観光とともに充実した有意義な3日間でした。

A.I

2日目の興福寺、多川峻映貫主の唯識という研修は難解なものでした。私たちの心の中には善、煩惱など1日に6万個にも及ぶ想念が生まれる中で、現代は「心の時代」ではなく、「心を鍛えていく覚悟が大事な時代」なのだそうです。現代は医療の発達で生きることになり過ぎる余り、生きることは死にゆくことの意識が薄れ、濃密であるはずの人生を薄味にしているともおっしゃっていました。

難解な話の後で、理解できた貫主様の言葉があります。『人の話を聴くとは、意見をいうのではなくひたすら聴く立場に徹することで交通整理が出来る。10分~15分に出てくる悩みは浅いもので、後で出てくるのが深い悩みである』……いのちの電話と一緒にでした。

高校の修学旅行で一目ぼれした興福寺・阿修羅像にも再会でき奈良の落ち着いた雰囲気に魅せられた旅となりました。

N.K

私たちはあおもりのちの電話を応援しています

一般財団法人愛成会

弘前愛成会病院

院長 田崎 博一

弘前市北園1丁目6-2

TEL 0172-34-7111

一般財団法人済誠会

十和田済誠会病院

十和田市西二十三番町1番1号

TEL 0176-23-6251

医療法人サンメディコ

下田クリニック

院長 下田 肇

弘前市城東中央4丁目1-3

TEL 0172-27-2002

医療法人なごみ会

山内整形外科

理事長 山内 正三

弘前市城東4-6-7

TEL 0172-26-3336

こひつじ保育園

園長 吉田 孝子

弘前市榎木用田185-1

TEL 0172-98-2601

社会医療法人

松平病院

理事長・院長 北條 敬

八戸市新井戸出口平17

TEL 0178-25-3217

弘果 弘前中央青果(株)

代表取締役 大中 忠

弘前市末広1丁目2-1

TEL 0172-27-5511

マエダ調剤薬局

代表取締役 前田 淳彦

弘前市稔町2-2

TEL 0172-38-5030

ミカミ歯科

院長 三上 弘之

弘前市駅前1-1-5

TEL 0172-33-5400

緑の森薬局

代表取締役 神馬 裕司

弘前市城東2-1-1

TEL 0172-26-0077

やまと印刷(株)

代表取締役 秋元 清仁

弘前市神田4丁目4-5

TEL 0172-34-4111

(有)タムラオートサービス

代表取締役 田村 元氣

板柳町福田字実田11-41

TEL 0172-72-0073

和食レストラン佐和家

代表取締役 澤田 美貴男

弘前市本町91

TEL 0172-37-0055

(株)アップルケミスト

代表取締役 長谷川 景一

弘前市石渡二丁目1番地47

TEL 0172-55-5561

(株)大川地建

代表取締役 大川 誠

弘前市城東4-4-4

TEL 0172-29-7796

(株)スコーレ

代表取締役 大中 廣

弘前市駅前3-15-5駅前ビル3F

TEL 0172-37-5751

(株)日善電気

代表取締役 相馬 祐次

弘前市藤野1-7-6

TEL 0172-36-1515

やぎはし腎・泌尿器科医院

院長 八木橋 勇治

弘前市笹森町39-1

TEL 0172-38-5533

医療法人聖誠会

石澤内科胃腸科

院長 石澤 誠

弘前市新町151

TEL 0172-34-3252

第24期生 電話相談員新人養成講座

新人養成講座の研修は2017年5月から始まります。

☆詳細は3月頃にご案内できますので、事務局にお問い合わせください。

☆HPでもご覧になれます。<http://www.inochi-a.net/>

※ 上記の方々からは賛助会費とは別にご寄付いただきました。趣旨を理解していただき、ご協力くださったことに深く感謝いたします。